



ADCA 事務局よりの雑感

ADCA 事務局

原田 幸治

ADCA 会員および賛助会員ならびに海外援助に携わる政府および関係機関の皆様日頃 ADCA 諸活動実施に関して大変お世話になっております。紙面を活用させていただき改めて感謝申し上げます。

折角の機会ですので平成 20 年 5 月から事務局で ADCA 諸活動をさせて頂いている立場からの感想を以下述べていただきます。

先ず、会員各社におかれましては ODA 漸減傾向の中、経営幹部自ら率先して現地に長期間滞在し、頑張っておられることに関して改めて敬意を表したいと思えます。JICA 等の海外業務も ODA 漸減傾向の中ある意味で致し方ない面がありますが、ここ数年数次にわたる人件費単価の引き下げ、実態と違う業務従事者の格付けのダウングレード等もあり極めて厳しい状況にあると拝察いたします。幸いアフリカ、アフガニスタン等苛酷な条件などところでは、結構仕事はあり、国を選ばなければそこそこ仕事があることは確かですので、国内の仕事に比べみれば恵まれていると思えますが、経営実態、経営感覚としてはかなり厳しいものがあるように思われます。

言うまでもなくコンサルタンツ業務は従事する人が全てと言っても過言でないと思えます。そういう意味から職員の資質・能力の向上は各社にとって喫緊のかつ永遠の課題と思えます。特に海外業務を受ける際、各従事団員の過去の実績が強く求められるわけですので、若い人に実質的資質・能力の向上のみならず海外での経験・実績を如何に積んでいかせるかが大きな課題だと思えます。ADCA 事務局も微力ながら、若い方だけでなく国内からの転籍組の方を対象とした PCM 等の研修、海外のプロジェクトでの OJT(現地実務研修)、セミナー・勉強会等を皆様方の協力を得ながら実施しております。会員コンサルタンツからの要望がある限り、出来る限りこれらの活動も徐々に拡大していきたいと思っております。

また、昭和 52 年 ADCA 設立時に比べれば、プロジェクト・ファイディング等の位置付けが随分変わってきましたが、今後農業農村開発の優良案件確保のためにも重要だと思っております。また貧困削減の視点のみならず、平和構築・復興支援、環境・地球温暖化等の観点からも寄与するという事も十分アピールしていく必要があり、そのため JICA 農村開発部等幹部との意見交換や ADCA プロファイの JICA 向け説明会も機会を見て積極的に開催したいと思っております。

それから新成長経済戦略、インフラ輸出、BOP 等ビジネス等を活用した今後の展開に対しても、難しいこととは思いますが、積極的に関与していくべきであると思われます。

別の観点で言うとこれらに関与できなければ従来型のはパイが漸減する中益々減っていくと思われしますので、更なる縮小再生産という負のスパイラルの道に繋がるのではと危惧しています。

末筆ながら、会員の皆様等には今後とも ADCA 事務局に対してご支援ご鞭撻の程よろしく願いいたします。会員の皆様に期待され頼られる事務局目指して、今後とも頑張っていきたいと思えます。